

第 35 回若手研究者・院生情報交換会報告

関西社会福祉学会が主催した第 35 回若手研究者・院生情報交換会（第 1 回留学生ワークショップ）は、2016 年 1 月 16 日に「日本で働く外国人研究者のあり方」をテーマとして同志社大学新町キャンパスで行われ、関西各地から多くの留学生を含め 24 名が参加した。プログラムは、関西社会福祉学会理事である黒木保博先生の挨拶から始まり、1 部の講演と 2 部のグループワークに分けて行われた。

1 部では、日本での留学経験をもっている研究員とソーシャルワーカーの OB・OG から研究や就職の進め方について語っていただいた。基調講演者である徐琮氏（上海応用技術学院人文学院副教授・同志社大学社会学部客員研究員）は、「留学生経験をもつ研究者の研究スタイル」という主題で、日本での留学生活から就職までの経験を中心として語られ、留学生として身につけるべきことや縁の大切さなどについて強調された。続いて、李善恵氏（同志社大学大学院社会学研究科助手）からは、外国人研究者として働くためにいかに準備するべきかについて主に語られ、留学生が参考にできる多様な情報についても語られた。黄驥氏（龍谷大学社会学研究科博士後期課程）は、博士論文執筆の経験を語られ、そのうち、研究方法の大切さについて強調された。李麗氏（社会福祉法人四日市福祉会相談員）は、留学中の活動と経験が就職にどのように繋がるのかをご自身の経験に基づき、説明された。

2 部では、グループに分かれ、留学生としての悩みや苦勞、就職の制約（ビザの取得）など、より深い話ができ、留学生同士で共感できる有益な時間となった。

最後に、今回の留学生ワークショップは社会福祉を学んでいる留学生にとって、研究者もしくはソーシャルワーカーとして日本で働くためにいかに準備するかの質問に対する答えを得られた有意義な機会になったと考えられる。

（同志社大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 孟 浚鎬）